

◎主な研究成果のご紹介

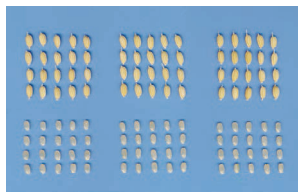
◆栽培特性が優れる極良食味品種「青天の霹靂」を開発

(一財)穀物検定協会の食味官能試験で、県内の品種では初めて「特A」評価を取得しました(平成26年産米)。

耐冷、耐病で栽培特性も優れ、平成27年4月に本県の奨励品種に指定され、本格的な作付が始まりました。



「青天の霹靂」の草姿



「青天の霹靂」の穂と玄米
左:「つがるロマン」
中:「青天の霹靂」
右:「まっしぐら」

◆省力・低コスト水稲生産技術のマニュアル作成

寒冷な本県の気象条件において実用可能な省力・低コスト生産技術として、「水稲V溝乾田直播栽培」と「水稲疎植栽培」の実用化技術を開発し、体系化しました。



左:V溝乾田直播栽培マニュアル
右:水稲疎植栽培マニュアル

◆レタス根腐病の“農業によらない”被害軽減技術を開発

レタス根腐病の被害軽減のため、「転炉スラグを用いた土壌pHの矯正」に加えて、「耐病性のある品種を選定」し、定植時の根傷みが少ない「ペーパーポット育苗」との組合せによる安定生産技術を開発しました。



左2列:実証区 右2列:慣行区(欠株が多い)

◆アルストロメリアの秋定植無加温越冬栽培を開発

アルストロメリアを秋に定植し、定植年を無加温で越冬させることによって、多くの品種で採花盛期が夏秋期となり、販売試算額が増加すること、また一冬分の暖房費が削減でき、凍害による枯死も見られないことを確認しました。



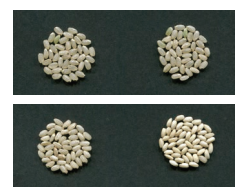
左:春定植、右:秋定植
アルストロメリアの試験状況

◆中生・耐病・良食味低アミロース米品種「あさゆき」の開発

米の品質の変動が少なく安定しており、耐冷性、いもち病に強く、さめてもおいしい、加工用、混米、単品で利用できる「あさゆき」を開発しました。(平成28年から一般栽培開始)



「あさゆき」の草姿
左:まっしぐら、右:あさゆき



「あさゆき」(左)と「ねばりゆき」(右)の玄米
上段:通常年(H25)、下段:高温年(H26)

◆簡単に適正な施肥量を計算できる「施肥なび」を開発

簡単な操作で土づくり肥料(土壌改良材)、堆肥、肥料の適正量や肥料費を計算できる施肥設計支援システム「施肥なび」を開発し、ホームページで無料で利用できるようにしました。

(URL <http://www.aomori-itc.or.jp/sehisekkei/>)



「施肥なび」の施肥設計画面

◆水稲育苗ハウスを活用したトマト栽培の普及を目指して

水稲育苗後のビニールハウスの有効利用を目的に、トマトを6月に定植して販売単価が高い9月~10月に収穫する作型について研究しています。これまで、土耕栽培では8.8t/10a、水稲育苗箱や十和田砂を利用した簡易な養液栽培では6.7t/10aの収穫が得られました。



十和田砂を利用した簡易な養液栽培(左:十和田砂、右:収穫期の様子)

◎その他の試験・研究・調査のご紹介

- ◆トルコギキョウの夏秋期安定生産技術
- ◆大豆の低収要因対策技術に関する研究
- ◆優良な種苗を生産するための原種・原原種の生産
- ◆水稲・畑作・野菜病害虫に対する新農薬の効果比較試験
- ◆県の病害虫発生予察のための基礎調査
- ◆衛星画像を活用した高品質米生産技術の開発と実証
- ◆水稲・小麦・大豆の作況試験
- ◆葉菜類・トマト・イチゴの養液栽培試験